

いま、開設して早や15周年を迎えようとしている本学歯学部の中で、歯科矯正学の卒前、卒後教育について、思考を新たに、将来の歯科医療にそうものを築く努力をしてみたいと思う。

極めて、僅かな時間内で、これらを提言し助言を仰ぐこととした。

質 問：上 野 和 之（第二保存）

とくにプライマリー・ケアとの関連についてみますと、治療というより予防との関連が重視されます。そうしますと、単に歯科矯正学というよりは、成人歯科に対する小児歯科という広い意味での取り組みが必要になると思われますが、この点如何お考えでしょうか。

回 答：演 者

時間の関係で詳しく述べませんでした。大へんに有難いご発言をいただきました。

これからは矯正学教育においては、卒後教育では二本立、すなわち、専門医的思考で研修をする（従来、この線が強かったですが～）ものと一般医として咬合の育成を考える思考で研修をするためのものをセットする必要があると思います。（何々科的という従来の考え方を無しにして）

そういう意味から、卒前教育については一般医として咬合を「育てるにも」「作るにも」適えられる歯科医の知識と実践のための基本を修得させたいと考えます。そこで開講のときから今年度の卒業生まで講義と実習のプログラムを与えてきました。

演題18 実験動物における感染症

特にラットのブドウ状球菌について

。吉 田 熙, 伊 藤 忠 信, 吉 田 昭 隆*
小 田 浩 一*, 大 堀 勉**

岩手医科大学歯学部歯科薬理学講座

岩手医科大学医学部動物舎*

岩手医科大学医学部泌尿器科学講座**

近年、実験動物に対して、関心が高まっております。実験動物の疾病は感染症と非感染症とに分けることができます。非感染症は高血圧症ラットに見られるように、遺伝的な背景などによって発症する疾病であり、感染症はウイルス、細菌、寄生虫などの感染によって発病する疾病であります。実験動物がこれらに感染しますと、生産効率の低下、品質の低下、ひいては系

統の種切れ、実験の失敗、実験データの誤認、他の動物や飼育者、実験者への感染の危険などが伴います。今年3月、本学歯学部A棟動物舎において、感染症の眼疾患が見られ、種々の検査によって菌を同定したところ、ブドウ状球菌感染症であったので報告します。

4週令、80g前後のSD-JCL雌雄ラットを約2カ月、薬物投与しながら飼育していたところ、角膜浮腫による突起を伴った眼疾患が見られました。断頭放血後、両眼を摘出し、剖検したところ、眼疾患のほか、肺に充血が見られました。しかし、他の臓器には異常は見られませんでした。眼房水をMannit-salt agar培地を用いて培養したところ、Mannit 分解能陽性のコロニーがみられ、さらにそれらが病原性であるか否かを確認するため、coagulase testを行い、coagulase陽性の病原性のStaphylococcus aureusであることが確認されました。また、光顕でグラム陽性のブドウ状球菌が観察されました。眼球結膜と肺組織とを10%-Formalin固定、H.E染色を行ないました。眼球結膜は上皮下には浮腫状となり、血管新生や細胞浸潤が激しく、炎症症状が強く見られました。涙腺は膜細胞の崩壊が強く、出血も認められました。肺は炎症所見は軽度でしたが、出血傾向が強く、血管周囲は浮腫状でしたが、気管支とその周辺には異常が認められませんでした。

演題19 断層像はいかにして得られるか

。村 井 竹 雄, 柳 澤 融*

岩手医科大学歯学部歯科放射線学講座

岩手医科大学医学部放射線医学講座*

演題のテーマについては従来講義の中で図により学生に説明してきた。しかし学生がその後第3者に対して説明ができるだけ、理解させることが困難であることを知った。

そこで我々は視聴覚により前述の困難を能率よく克服することを考え断層撮影装置のシミュレーション装置利用による教育法を採用することとした。この装置はX線の代りに可視光線による被写体の影像を直接見させつつ断層像の得られる原理を容易に理解させるように製作させたものである。

シミュレーターの構造

長さ約110cmの垂直支柱の上端に小形プロジェクターを、下部に受像平板を水平を保つようにとりつ